

原因究明・再発防止、実弾演習禁止を

陸自・あいは野演習場の場外着弾事件

党滋賀県委員会・地方議員・住民団体が要請

山下・大門参院議員が同席

今月14日に滋賀県高島市の陸上自衛隊饗庭野演習場で訓練中の陸自部隊が発射した迫撃砲弾が場外に着弾し、破片で民間車両を損傷する重大事件が発生した問題で、20日、日本共産党滋賀県委員会とあいは野平和運動連絡会は国会内で防衛省に抗議・申し入れを行いました。佐藤こうへい参院滋賀選挙区候補、森脇徹、福井節子両高島市議、立道秀彦大津市が参加。山下よしき、大門実紀史両参院議員が同席しました。



要請する(左から)佐藤、大門、山下、森脇、福井、立道の各氏

人命軽視・不誠実対応に抗議

要請項目は①原因究明を行い、全容を明らかにすること—この

5年間の実弾射撃訓練の着弾記録の提出、防衛省内部の構成になっている事故調査委員会に第三者を加える②屋内射撃を除く一切の実弾訓練禁止③自衛隊と県・市との間に結ばれた「覚書」などに反し事件発生後も発射訓練を続け、市への通報が遅れたのはなぜか—明確な回答を③原因究明後の住民説明会は代表者だけでなく、全住民を対象に④日米合同演習(来年1~3月)中止、オスプレイ飛来反対を—の4点。防衛省側は「事故調査委員会で原因を究明中」と繰り返すばかりでまともな回答はありませんでした。

同演習場は東西6~7^{km}、南北4~5^{km}と狭く、射程5~24^{km}の迫撃砲・榴弾砲の発射訓練を実施するなど、「そもそも実弾演習は無理」(地元区長)。そのうえ、周辺には15の集落、青少年施設があり、場内を国道が通過しています。森脇、福井両市議は、これらの点を示し「演習の危険性を訓練部隊に徹底しているか」と追及。防衛省は「分からない」としか答えられませんでした。

「覚書」は3年前に場内から発射された実弾が民家を直撃した際に今津駐屯地との間で結ばれたものです。今回なぜ守られなかったのかを追及する中で「各地からくる部隊に徹底されているのか」と尋ねると「確認していない」と回答。山下議員は「住民の人命軽視だ」と厳しく抗議。あいは野連の早藤吉男共同代表、泉勝男事務局長は「3年前の教訓が全く生かされていない。起こるべくして起きた事件」と批判しました。

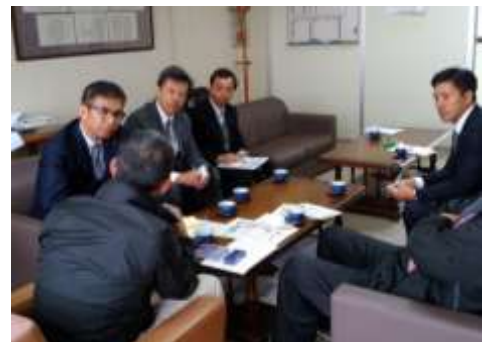
今回の要請は防衛副大臣に対して行う予定だったが、当日朝になって事務レベルでの対応となったうえ、対応者は係員クラス。不誠実な対応に山下、大門両議員は厳しく抗議しました。

漁業法改悪反対「拙速許されぬ」

兵庫・淡路 宮本・金田氏が漁協を訪問

日本共産党の宮本岳志衆院議員、金田峰生参院兵庫選挙区候補は沿岸漁民の漁業法を大企業に売り渡す漁業法改悪問題で19日、兵庫県淡路市の富島、浅野浦、育波浦、津名の各漁協を訪問。改悪案の内容を伝え、漁業者の要望を聞きました。

宮本氏は「法案の内容が現場の方に知られていないうちに拙速に進めることは許されない」として臨時国会で成立を図る安倍政権を批判。沿岸・中小漁業者を重視した漁業振興と資源管理の重要性を強調しました。鎌塚聡淡路市議、岡田教夫党淡路地区委員長が同席しました。(写真)



18年近畿ブロック事務所ニュース

Tel06(6975)9111 Fax06(6975)9115

【府県・地区・地方議員御中】

No. 44(2018.11.21)